

キャンパス利用にあたって… 感染予防に努めよう

後期から一部の授業で対面方式が再開された。キャンパス利用にあたっては、ポータルで配信している感染予防のための注意事項を順守してほしい。一部を抜粋する。

構内で

キャンパス入り口の検温所で体温チェックを



建物入り口にある消毒液で必ず手指の消毒をしてください



- ・通学時や学内では必ずマスクを着用
- ・登校前には検温し37.5度以上ある場合や体調不良時は登校しないでください
- ・エレベーターは健康上の理由で必要な場合以外は混雑時の利用を避けてください
- ・授業終了後は速やかに帰宅してください

全般的な注意

体調不良の時

キャンパス内で体調が悪くなった場合はすぐに保健室へ連絡してください

図書館の利用



学生・教職員を対象に限定開館(閲覧席の一部開放、貸出、返却)を行っています
事前予約は不要。滞在時間は1日最大3時間です



教室は表示に従い、決められた場所に着席。十分間隔を空けてください



端末室の利用は事前ウェブ予約が必要です

※10月14日現在。施設利用方法などについては、状況により変更することがありますので、ポータルや大学ホームページで最新情報を確認してください

育友会では例年、箱根駅伝予選会の応援に駆け付けていたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で無観客で開催。せめてメッセージで鼓舞しようとする全67支部に協力を呼び掛けた。9月末までに集まったハンカチは、支部ごと、その地域出身の選手の名や「一致団結して頑張

育友会支部

ハンカチで駅伝応援



全国の支部から寄せられた応援メッセージ

コロナに負けず、全力で駆け抜けて。10月17日の箱根駅伝予選会を前に、育友会の全国の支部から応援メッセージが届いた。30四方の真っ白なハンカチに、思い思いのメッセージをしたためている。育友会本部や、職員も寄せ書きし、ハンカチは合計70枚。つなぎ合わせてのぼり旗に仕立て、陸上競技部に贈った。

ろう「努力は裏切らない」といった激励の言葉、イラストなどで埋め尽くされた。育友会役員が縫い合わせ、6本ものぼり旗に仕上がった。10月9日、育友会の高橋喜副会長と同父母幹事3人が陸上競技部に贈り、部員たちは力強く走り抜くことを誓った。高橋副会長は「全国の育友会の仲間がワンチームとなり、素晴らしいのぼり旗が完成した。出迎えてくれた陸上競技部の4年

商・太田教授 学会賞を受賞

太田和博商学部教授が2020年度日本交通学会賞(著書の部)を受賞した。受賞したのは「日本の道路政策―経済学と政治学からの分析」(2020年・東京大学出版会)。膨大な体系を持つ道路政策の本質を経済学と政治学の手法を駆使して究明し、わが国の道路政策の全体像を分かりやすく解き明かした。10月10日にオンラインで授賞式が行われた。

公開講座情報

大学院公開講座(オンライン)「日本語の音声と文字―社会の中での日本語」



来場者の関心が高かった木村東京都立大教授の基調講演

日本・ポストベンション・カンファレンス開催 自殺予防と遺族支援を討議

9月11、12日に、専修大学神田キャンパス10号館で、「Sustainable Development Goals」日本・ポストベンション・カンファレンスが開催された。主催は全国自死遺族連絡会、共催は「自殺予防と自死遺族支援・調査研究センター」と「自死遺族等権利保護研究会」であり、本カンファレンスは厚生労働省自殺防止対策事業に採択されている。1日目は、全体会の基調講演で、憲法学者である木村草太東京大学教授による「不幸にして自殺が生じた場合、遺された人々に及ぼす心理的影響を可能な限り少なくするための対策」が、都立大学教授による「自死の族への不当請求というテーマでこの分科会の報告を担当した。午後

2日目の午前分科会で、自死遺族の自助・他助グループの団体の活動報告と討議があったほか、自死遺族の法律問題の報告があった。今年8月の自死者は昨年の同月より246人増えて1849人(9月12日現在の新型コロナウイルス感染症の国内の死者は累計1453人)となり、自死遺族支援と自殺予防はコロナ対策と同様に重要な課題であって、本カンファレンスが本学で開催された意義は非常に大きいといえよう。(法科大学院教授 山田創一)

育友会 就職懇談会をライブ配信

10月31日(土) 14時開始
育友会就職懇談会をYouTubeでのライブ配信形式で開催します。
【プログラム】▷キャリア形成支援課による講演 ▷就職活動体験談(パネルディスカッション)▷本学卒業生が語る! 人事担当者としての視点(録画配信)
アクセス方法などの詳細は育友会ホームページ(右記QRコード)やメールマガジンでご覧ください。
なお、10月31日(土)に予定しておりました「神田キャンパス見学会」は、参加者の健康と安全を第一に考え、中止とさせていただきます。

計報

鈴木丹士郎氏(すずき たんじろう) 名誉教授・元文学部教授
9月14日、82歳で死去。1965年から2008年まで在職。専門は日本語の歴史。